

■全体講評

午後Ⅰ記述式試験では、各問題の選択率が10%以内に収まっており難易度が平準化されていること、午後Ⅱ論述式試験では、問1では内部不正に関する監査、問2では、運用段階における可用性確保に関する監査、という論述しやすい題材が出題されていることを根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

次に、午後Ⅰ記述試験講評、午後Ⅱ論述式試験講評を述べます。

■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1はハイテク機器を輸入販売している商社のERPシステムの監査、問2はモバイルコンピューティングの企画段階の監査、問3はプロジェクト管理の監査です。

システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、業種やテーマが広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活かせるテーマを選んで解答することが大事です。

問題の選択についてですが、一般的には問1、問2を選択する人が多いのです。今回の試験ではプロジェクト管理の監査という、馴染みやすい問題であったため、均等に問題が選択されています。これはよい傾向です。本試験でも、問3まで問題の概要をチェックするようにするとよいでしょう。

次に記述式問題における確認項目を説明します。

(1) キーワードを解答に盛り込む

記述式問題の採点では、複数の採点者が採点するため、採点者による格差をなくす目的で、キーワードを中心に採点することがあります。

問1の設問2では、問題文にある“初期設定作業”，問2の設問2では、設問文にある“人的コスト”や“支援コスト”，問3の設問1では、問題文にある“生産性データ”，設問4では、問題文にある“システムアーキテクト”設問5では、問題文にある“一括請負契約”などのキーワードを解答に盛り込むようにしましょう。

試験対策セミナーにおいて、キーワードが解答にない理由を受講者にヒアリングすると、「解答欄に解答を書く際に、空欄が足りないのでキーワードを書けなかった」という回答をもらうことがあります。字数不足でキーワードを解答欄に書けない場合、解答を消して書き直して、得点に必要なキーワードを確実に解答に盛り込むようにしましょう。

(2) 設問で問われている内容と解答の語尾を合わせる

設問で理由を問われているにもかかわらず対策を書いている解答などが散見されます。理由を問われた場合は、基本的には「～ため」や「～から」という語尾にするとういでしょう。今回、語尾が不適切な解答は、厳しいですが、不正解としています。

(3) 設問文にある解答条件を満たす解答を作成する

具体的には、問2設問3において「データセンタ上の情報システムについて」が該当します。タブレット端末に関する解答を書いても、設問の条件を満たさないことになり、不正解となります。

記述式問題の点数は、ボーダーラインである60点付近に集中します。以上3点に留意して、本試験に臨むようにしましょう。

■午後Ⅱ論述式試験講評

2問中1問の選択になります。問1は、内部監査の是正処置に関する監査、問2は、パブリッククラウドサービスを導入する場合の監査、です。

基本ができていないと午後Ⅱ論述式試験突破は難しいです。午後Ⅱ論述式試験では、次の点を確認してください。

- ①名詞を問われている場合、あるいは、箇条書きのタイトル以外では、体言止めを使用しない
- ②略字を使用しない
- ③禁則処理を行う
- ④“である”調に統一する
- ⑤“いただく”などのていねい語は使わない
- ⑥問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する
- ⑦解答冊子における、設問イやウの論述開始箇所を確認する
- ⑧「実績と実績」、「購買と購売」、「概要と概用」などの誤字がないかを見直す

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。したがって、(1)管理と監査の違いを説明できること、(2)リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント(監査要点)、監査手続、監査証拠の考え方をしっかりと習得しておくこと、が重要です。

基本的な論述の確認すべきポイントを挙げておきます。

- ①採点者が採点しやすいように、設問文に沿った章立てをする
- ②採点者が採点しやすいように、設問文で問われているキーワードを使って論述する。

③過度に我田引水せず、趣旨に沿って論述する

④監査手続には、監査手続を適用する対象、監査技法を含めて表現する

監査手続に“閲覧”，“精査”，“突合”，“インタビュー”などの監査技法を盛り込んで監査手続を表現することは重要です。

何を基に確認するのか、明確ではない監査手続が散見される傾向があります。監査手続の解答を作成したら、監査手続を適用する対象を含めて表現しているかを確認するとよいでしょう。実際に他者に指示をして監査手続を実行できるように、具体的に表現することが重要です。

■＜午後Ⅰ＞

問1 ハイテク機器を輸入販売している商社のERPシステムの監査

この問題では、問題文中の記述を基に、リスクとコントロールの対応を把握することが重要です。

問題文中にある**重要キーワード**を解答に盛り込むようにしましょう。具体的には、設問2における“初期設定作業”が該当します。

【採点基準】

〔設問1〕

解答例の趣旨に合った解答であれば各4点。その他は、基本的に0点。ただし、空欄aについては「営業管理課」を必須としました。

〔設問2〕

“受注入力”及び“初期設定作業”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば8点。“受注入力”及び“初期設定作業”というキーワードのうち、どちらかがない解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

〔設問3〕

問題点について、解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。

監査証拠について、“データ移行”を必須とし解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。

〔設問4〕

“請求書の合計金額と入金データの金額”及び“売掛金”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば8点。“請求書の合計金額と入金データの金額”及び“売掛金”というキーワードのうち、どちらかがない解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

ただし、“請求書の合計金額と入金データの金額”の代わりに“自動消込ができない”旨を指摘しても可。

〔設問5〕

解答例にある一つ目の解答については、“承認”を必須

として6点、キーワードである“承認”がなく趣旨が合っている解答は部分点の3点。その他は、基本的に0点。

解答例にある二つ目の解答については、解答例の趣旨に合った解答であれば6点。その他は、基本的に0点。

【講評】

〔設問1〕

空欄aは、“営業所長”という解答が散見されました。厳しいですが、不正解としました。解答解説にあるように「営業管理課は、入力された受注情報の内容を確認した上で」と表1に記述されていることを根拠に“営業管理課”を必須としました。

空欄bは、高い正答率の設問でした。

〔設問2〕

〔不適切な取引の発生〕の最後に「新ERPシステムには追加のコントロールを実装」という記述があることから、厳しいですが、アプリケーション・コントロール（業務処理統制）に関わる解答だけを正解としました。

〔設問3〕

問題点については、高い正答率でした。

監査証拠については、厳しいですが、“データ移行”を含まない解答は不正解としました。

〔設問4〕

“請求書の合計金額と入金データの金額が一致しない売掛金の一覧”の他に“自動的に消込処理が行われない売掛金の一覧”という解答についても、正解としました。

〔設問5〕

解答例にある一つ目の解答については、“承認”の代わりに“チェック”や“確認”という言葉が使われた解答については、厳しいですが、部分点としました。

問2 モバイルコンピューティングの企画段階における監査

この問題では、設問文にある解答条件を満たす解答を作成することが特に重要となります。具体的には、設問3において「データセンタ上の情報システムについて」が該当します。この設問では、タブレット端末の障害を含めると、この解答条件を満たさないこととなります。設問文にある**解答条件**を全て満たす解答を作成するようにしましょう。

【採点基準】

〔設問1〕

“機密性”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。“機密性”というキーワードがない趣旨に合っている解答は部分点5点。その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

解答例の趣旨に合った解答であれば各10点。その他は、基本的に0点。ただし、設問文にある「人的コスト」

及び「支援コスト」を含まない解答は部分点 5 点。

[設問 3]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

解答例の趣旨に合った解答であれば各 3 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

[設問 1]

設問文にある「社外利用が前提」及び「営業効率の検討だけでは不十分」という記述があり、社外利用における機密性の検討が必要と考え、“機密性”を含まない解答については、厳しいですが、趣旨に合っても、部分点 5 点としました。

[設問 2]

解答例にあるように、設問文にある「人的コスト」及び「支援コスト」というキーワードを使って解答を表現するようにしてください。これらのキーワードを含まない解答は、厳しいですが、解答例の趣旨に合っても、部分点 5 点としました。

[設問 3]

設問文に「データセンタ上の情報システムについて」という記述があることから、タブレット端末本体に関わる障害を含めている解答は、厳しいですが、不正解としました。

[設問 4]

解答例の趣旨に合った解答は正解としました。

問 3 プロジェクト管理の監査

解答を書き終えたら、**設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認**することが重要です。“生産性データ”、“システムアーキテクト”、“一括請負契約”などの**問題文に書かれたキーワードをしっかりと解答に盛り込む**ことで高得点を得るようにしましょう。

【採点基準】

[設問 1]

“生産性データ”を必須とし解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。キーワードである“生産性データ”がない解答は 5 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

空欄 a は解答例と同じ解答であれば 2 点。その他は、基本的に 0 点。

空欄 b は解答例と同じ趣旨の解答であれば 3 点。その他は、基本的に 0 点。

判断した理由については、“2 点が該当”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 5 点。趣旨が合っても“2 点が該当”を含まない解答は 2 点、その他は、

基本的に 0 点。

[設問 3]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

“システムアーキテクト”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。キーワードである“システムアーキテクト”がない解答は、基本的に 0 点。

[設問 5]

“一括請負契約”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。キーワードである“一括請負契約”がない解答は、基本的に 0 点。

【講評】

[設問 1]

監査結果とプロジェクト管理規定を照らし合わせて、解答を導きます。**問題文にある詳細な記述に正解を導く記述がある**と考えて、プロジェクト管理規定を読解しましょう。

[設問 2]

高い正答率でした。厳しいですが、判断した理由については、“2 点が該当”を必須としました。

[設問 3]

語尾が「～しているか」という解答が散見されました。設問では、理由について問うています。解答の語尾は、「～ため」や「～から」となるようにしましょう。“**設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認**”ことが重要です。合っていない解答は、趣旨が合っても、厳しいですが、不正解としました。

[設問 4]

高い正答率でした。

[設問 5]

“一括請負契約”というキーワードを含まない解答は、厳しいですが、不正解としました。

■合格に向けての学習

〔午後 I 記述式試験〕

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析する方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

〔午後 II 論述式試験〕

公開模擬試験のレビューをしたら、弱点を自己診断し対策を講じましょう。

監査手続を書けない受験者が散見されることが、IPA の試験講評の内容から分かります。論述式試験のため

に、監査手続の対象、監査技法を含む監査手続を書けるようにしておきましょう。

本番のシステム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。そのため、システム監査における基本的な、リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント（監査要点）、監査手続に関する知識を整理しておきましょう。知識を使え、応用できるようにしておくことが重要です。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

■本試験での注意

(1)記述式問題では3問とも概要を確認

本試験では、問3まで余裕をもって問題の概要をチェックして、問題を選択するようにしましょう。

(2)集中力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。今回は会場受験が中止になりましたが、自宅等で行った公開模擬試験で体験した体力の消耗度や集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後Ⅱ論述式試験が終了するまで、集中力を上手に配分して、試験の途中で力尽きないようにしましょう。

(3)他人事ではない問題選択の記入漏れへの留意

記述式問題の解答では、問題選択の記入漏れは少ないのです。今回、全て郵送にもかかわらず、論述式問題では5%程記入漏れがありました。論述式問題における問題選択の記入漏れは他人事ではありません。本試験では解答提出時に最終確認を怠らないようにしてください。

合格に向けて、がんばりましょう。

—以上—